

平成 23 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 黒川木徳フィナンシャル・ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 工 藤 英 人  
(コード 8737 大証第2部)  
問合せ先 執行役員管理本部長兼総合企画室長兼財務経理部長 川中 雅浩  
(TEL 03-6821-0606)

## 平成23年3月期業績と前年業績との差異に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の業績が、前期の平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績に対して、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 23 年 3 月期業績と前年業績との差異について

##### (1) 平成 23 年 3 月期業績と前年業績との差異（連結）

(単位：百万円、%)

	営業収益	純営業 収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 22 年 3 月期 (A)	3,490	3,423	△125	87	73	2 円 07 銭
平成 23 年 3 月期 (B)	3,352	3,207	△369	124	2,097	35 円 83 銭
増減額 (B-A)	△137	△216	△244	37	2,024	33 円 76 銭
増減率 (%)	△3.9	△6.3	—	42.7	2,746.8	1,630.9

##### (2) 平成 23 年 3 月期業績と前年業績との差異（個別）

(単位：百万円、%)

	営業収益	純営業 収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 22 年 3 月期 (A)	94	—	△198	△143	△91	△2 円 58 銭
平成 23 年 3 月期 (B)	152	111	△132	16	△426	△7 円 97 銭
増減額 (B-A)	58	—	65	159	△334	△5 円 39 銭
増減率 (%)	61.7	—	—	—	—	—

### (3) 差異が生じた理由

当連結会計年度における我が国経済は、中国などのアジア新興国の活発な景気に支えられ、輸出や生産が底堅い動きを維持し、企業収益の改善や設備投資の持ち直しがみられ、緩やかな回復傾向で進みました。しかし、世界経済の景気減速懸念など不安定な状況のなかで、我が国は、依然厳しい雇用情勢、円高の長期化、また平成23年3月に発生した東日本大震災による経済の混乱により、国内の生産、輸出に大きな影響を及ぼしており、先行きは不透明なものとなっております。

このような環境の中、株式市場におきましては、日経平均株価は平成22年8月下旬には8,800円台まで下落いたしました。世界的な金融緩和策などにより徐々に回復し、平成23年2月中旬には10,800円台まで上昇いたしました。しかし、3月11日の東日本大震災の影響を受け、一時は8,200円台と大きく下落し、その後は徐々に回復したものの、平成23年3月末の日経平均株価は、9,755円10銭で取引を終了いたしました。

当社の主要な連結子会社である黒川木徳証券(株)の当連結会計年度の受入手数料は2,816百万円(前年同期比4.0%減)、トレーディング損益は203百万円の利益(前年同期比43.6%減)となりました。また、東日本大震災の影響による株式相場の急落により発生した立替金に対する貸倒引当金を計上いたしました。これにより同社の営業損失は222百万円、経常損失199百万円、当期純損失460百万円となりました。

また、当社は、平成22年10月1日付で、親会社である(株)クレゾーを吸収合併消滅会社、当社を吸収合併存続会社として合併しておりますが、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号平成20年12月26日)第212項に基づき、子会社である当社の個別財務諸表における合併に係る処理を振り戻し、当該合併以前の(株)クレゾーの連結財務諸表における処理を合併後も継続すると共に、(株)クレゾーが当社の少数株主から株式を追加取得したものとして会計処理を行っております。

さらに、当社は、平成22年10月1日付で、当社を完全親会社とし、黒川木徳証券(株)を完全子会社とする株式交換を行いました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は3,352百万円(前年同期比3.9%減)、経常利益は124百万円(前年同期比42.7%増)、当期純利益は2,097百万円(前年同期比2,746.8%増)となりました。

以 上